

## コリント人への手紙第二 第6章 2節

神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。

ベランダの植物には度々登場してもらっている。特に薔薇の様子は頻繁に登場してもらっている。それだけ目にとまりやすい。寒風にもめげず、害虫にも負けず再生しているからである。周囲の状況に押しやられ、またつぶされることなく、枝葉を生きいきと伸ばしている姿に薔薇の生命力が見える。枝に突き出す棘は少々やっかいであるが、これもいのちのしるしである。

今も5つの新たな蕾をつけている。2つはかなり膨らんだ蕾となっている。それでも、ここ数日の寒空の下、なかなか開かない。寒さのなかでの忍耐が続く。その間、他の蕾たちが少しずつ大きくなっている。それぞれが、蕾の大きさに適った佇まいで花ひらく時をジーっと待つ。花開く時が来るからである。蕾をひらくお方がいるからである。ひらいた時こそ、恵みの時に答えている現われた。ひらいた時こそ、薔薇の花が花として世にひらく救いの日だ。しかし、ひらいた時だけが恵みの時だろうか。実は、雨風、陽射しを浴びている時、花咲く時を忍耐して待つ時、すべての時と日が恵みであり、救いの主の御手にある日々といえる。そうでなければ、蕾が開く恵みの時は来ない。

2021年12月8日